

## 6 従姉妹ケイト

- わたしは素朴な村むすめ  
光と風にさらされて  
村の暮らしに満足で 自分のことを  
きれいだなんて 思いもしない日々だった  
それなのになぜ 領主さまが 5  
ある日 わたしを見つけたの  
亜麻色の髪をほめてくださったの  
それくらい 苦しみばかりつづきます
- あの方に お屋敷に誘いこまれて —  
ああ なんてこと 楽しくて — 10  
愛されて ながさみものになって  
恥知らずな暮らしをしたの  
絹のリボンのようにもてあそばれて  
手袋のように使いすてられて  
そしていまは 嘆きつづける汚れた女 15  
きよらかな小鳩だったのに。
- ああ レディ・ケイト、わたしの従姉妹(いとこ)  
わたしよりきれいになった女の子。  
ある日おうちの門のそば あなたの姿を  
見かけた彼は あなたを選んでわたしを捨てた。 20  
小径を歩み ライ麦畑ではたらくすがたを  
あのひとはじっと見つめてた  
つましい暮らしからひきあげて  
自分のとなりにすわらせた。
- 清らかな娘(こ)だからと 25  
あのひとは指輪を贈り あなたを自分のものにした  
清らかな娘(こ)と あなたは村人にほめられて  
捨てられた娘と わたしは指をさされ  
泥にまみれて泣きさけぶ  
あなたは金いろをまとうたう 30  
どちらの方が愛情深いむすめなの？

あなたにはより強い翼があった それは確かでしょうよ。

ああ 従姉妹のケイト、わたしの愛は真実だった  
あなたの愛は砂に書いた文字  
もしも欺かれたのがあなたなら 35  
あなたがわたしの立場なら  
わたしは彼のものにはならない  
どんなに広い土地があっても わたしを買えない  
わたしならあのひとの顔につば吐きかけて  
結婚なんかしなかった。 40

だけどわたしが受けとった あのひとからの贈りもの  
あなたが持っていないものよ 今も そしてこれからも。  
どんなにきれいな衣装も 婚約指輪も  
かないはしない おあいにくね。  
わたしの恥 わたしの誇り 金いろの髪の毛のこの息子 45  
さあおいで 離れないのよ  
おまえはいつか 父の土地を受け継ぎ  
領主の冠をいただくでしょう。

(滝口智子訳)

(『小鬼の市とその他の詩 クリスティナ・ロセッティ詩集』 鳥影社. 2019.  
一部改訳)